

第2回向日市総合計画等外部評価委員会 議事要点録

○ 日 時 平成24年10月24日（水）午後2時から午後4時20分まで

○ 場 所 向日市役所 大会議室

○ 出席者

（委員） 中村委員、齋藤委員、香本委員、岡山委員、原田委員

（説明員）

重点施策	担当部局		出席者	
人にやさしい道路づくり	建設産業部	道路整備課	福岡課長	木村課長補佐
			小川係長	
水の安定供給	上下水道部	上水道課	栃下課長	田中課長補佐
		浄水場	高田次長	
まちぐるみごみ減量化の推進	市民生活部	環境政策課	酒井部長	長谷川課長
			楠堂主査	
阪急西向日駅及び周辺の基盤整備	建設産業部	道路整備課	菅沼担当課長	木村課長補佐
	市長公室	企画調整課	物部次長	上野主査

（事務局） 物部市長公室次長兼企画調整課長、安田課長補佐、山田主査、上野主査

○ 傍聴者 なし

○ 内 容

1 議 題

（1）重点施策評価に係る説明について

資料「向日市総合計画等外部評価委員会における施策評価の実施について」に基づき、事務局から実施目的及び実施方法を説明した。

（2）重点施策評価

- ①人にやさしい道路づくり
- ②水の安定供給
- ③まちぐるみ減量化の推進
- ④阪急西向日駅及び周辺の基盤整備

【意見の要旨】

①人にやさしい道路づくり

担当者：【施策の概要について説明】

委員：歩道の改修、改築とあるが、具体的にどのような工事をしているのか。

担当者：改修＝歩道の段差を 2cm にする。こう配を緩やかにする。粗い溝蓋を細かい目のものにするなど。

改築＝拡幅を含めた抜本的なもの。

委員：資料 3－5 で⑤を行った理由は。

担当者：歩行空間を確保するためにカラー舗装を行った（維持工事）。

実際、このような維持工事は市内全域で行っており、今回はサンプルとして一部を記載した。

委員：市民からの喜びの声とはどのような形で得たのか。

担当者：説明した事業は周辺からの要望が大きかった部分について整備を行ったものである。

委員：市道 2 1 1 8 号線（西国街道）を整備したのは、ボコボコしていることが不評だったのか。

担当者：平成 8 年頃に歴史街道に対しての国庫補助金を活用して整備を進めたものである。その後、バリアフリーに対するニーズが高まり、当該道路はバリアフリー基準に適合していなかったため、見直したものである。

委員：市道の総延長はどの程度か。

担当者：市道は 125km。

委員：工事での残土はどのように利用しているのか。また、工夫していることは。

担当者：残土は意識して流用している。工事現場での空きスペースを利用し、直後に使うものは利用できるようにしている。

工事には 2 次製品を使うことで、費用削減を図っている。

委員：通学路でカラー舗装以外に工夫していることはあるか。

担当者：路面表示、交通安全施設の設置、通学路看板の設置に取り組んだ。

委員：ハンプはつけないのか。

担当者：音がしたり、事故になる可能性があるので避けたい。

2 1 1 8 号線で電柱付近だけかぎ型にするなどの工夫をすることで減速を促すことにつながっている。

委員：一番交通量の多い西山高校付近まで整備が進んでいないがどうか。

担当者：今年度行う予定である。

委員：五辻から南側を先に整備している理由は。

担当者：学校や警察、周辺住民から路肩のカラー舗装について強い要望があったことから先に実施した。昨年度、西山高校でなく、北側を先行した理由は、バリアフリーの観点から先に石畳を除去することを優先したためである。

【仮判定】

委員全員 A

理由：バリアフリー化を着実に進めると同時に、危険個所にもしっかりと対応しており、質問にもしっかりと対応できていたことから。

②水の安定供給

担当者：【施策の概要について説明】

委員：①アセットマネジメントとは具体的にどういうことか。

②水道管の老朽化の基準はどのようなものか。

③水道管の取り替え率はどのくらいか。

担当者：①持続性を考えながら資産管理を行うことである。具体的には、資産の延命化や運用方法の考案、耐震化、老朽化対策などがある。

②水道管の材質ごとに定められている法定耐用年数を基準としている。

③市内で 163km ある送水管、導水管、及び配水管のうち、直径 250mm 以上の重要管路が 16.8km あり、そのうち 18.1%を耐震化した。

委員：鉛給水管は全部でいくつあるのか。

担当者：全部で 18,739 件あり、残りは約 6,000 件である。全部取り替えには約 27 年を要する（220 件／年）。

委員：道路工事や水道工事等で同じ場所を何度も掘り返す行為はなんとかならないのか。同時に行わないのは非効率ではないか。

担当者：道路工事といっしょに実施できる場合は同時に行っている。しかし、地中にはガス管、水道管、NTTの管など、いろいろな管があり、道路工事と各々の管の更新時期が合わないと同時に工事を実施することは難しいのが実情である。

委員：前年に残った課題はないのか。

担当者：この重点施策については目標を達成しているため、課題はない。

委員：これからの水道管等の交換等によるインフラ整備についてどのように行っていくのか。

担当者：これがこれから行おうとしているアセットマネジメントである。管の延命化等の資産管理についても科学的根拠をもって判断し、持続性のある運営を行っていく計画である。

委員：ミネラルウォーターを飲んでいるが、水道水は飲んでもいいのか。安全なのか。

担当者：水道水は厚生労働省が定める水質基準 50 項目をクリアしており、食品衛生法に従って作られているミネラルウォーターよりも安全である。塩素臭がするため、敬遠されることもあるが、安全を確保するためには塩素が必要であ

る。

【仮判定】

委員全員 A

理由：アセットマネジメントの視点から、予算まで考えて事業を実施しており、着実に給水管の取り替えを進め、目標数値を達成しているため。

③まちぐるみごみ減量化の推進

担当者：【施策の概要について説明】

委員：ごみの総量はどの程度減っているのか。

担当者：平成19年 12,624トン、平成23年 11,629トンとなっており、約1,000トン減っている。

委員：ごみ減量にかかる費用はどの程度か。

担当者：収集運搬費用（委託料）は変わらない。各家庭から出るごみの量（袋数）は減っているが、ごみを排出する戸数は変わらないためである。

処理費用については乙訓環境衛生組合への分担金で支払っているが、金額は大きな変化はない。分担金には施設の改修費用等が含まれているため、ごみ処分費のみの純粋な比較は難しいためである。

委員：資源化率が下がっていることから、4Rが進んでいないように見えるがどうか。

担当者：ごみの総量が減少しているため、資源化率も下がっている。資源化率はごみの重量から算出しているため、ビン等が減り、トレイやペットボトル等の軽いものが増えたことも下がって見える原因ではないかと考えている。

委員：施設見学はいつ行っているのか。

担当者：平日に行っている。

委員：学校が休みのときに親子で参加を促すなど、日程を工夫すべきではないか。

委員：スーパーや商店にマイバッグを持参していただく工夫をしていただくよう要請はしているのか。

担当者：行っている。実際にレジ袋を断る人がいるなど、効果は出ている。

委員：回収した廃食油はどうしているのか。

担当者：回収した方々に、飼料にするか、BDF（バイオディーゼル燃料）にしてもらうか選んでいただいている。

【仮判定】

A（2人）、B（2人）

理由：ごみ減量化の意義に関する周知が足りず、目標を時代に合わせて定量化していく必要があるため。

また、分別収集の環境が良くなる一方、ごみ減量化は市民の意識に起因する部分も大きいことから。

④阪急西向日駅及び周辺の基盤整備

担当者：【施策の概要について説明】

委員：なぜ西向日駅周辺を整備する必要があるのか。

担当者：歩道などが未整備であるため、駅利用者や通過交通の安全対策を講じる必要があるため。

委員：西向日駅バリアフリー化事業に対する補助金の総額、割合はどの程度か。

担当者：総事業費は2億9,000万円、市の補助額は約4,800万円、割合は、国 1/3、京都府 1/6、向日市 1/6、阪急 1/3

委員：桜並木の保全について、周辺住民の反応はどうか。

担当者：景観を大切にしていきたいとの思いで、まちづくり協議会（西向日桜の径を守る協議会）が発足しており、日々の落葉掃除等については協議会に頼っている状況である。

委員：今後、景観を保護していく方向であるのか。

担当者：桜並木には、自動車のスピード抑制や日差しに対するカーテンになるなどのメリットがある一方で、枝が民地内に入り込んだり、枯れてしまうなど、維持管理の面でデメリットもあるが、市としては景観を残したいと考えている。密植部分については間引くことにより、整理を行っていききたいと考えている。

【仮判定】

委員全員 A

理由：駅バリアフリー化が完了し、大変ありがたかったこと、また、桜並木の保全と駅周辺道路整備については活性化に向けて、今後に期待をもてることから。

3 次回の委員会の開催日程の確認について

次回以降の委員会日程について、下記のとおり調整を行った。

- ・第3回委員会は11月21日（水）午後2時から、
- ・第4回委員会は12月26日（水）午後2時から、
- ・第5回委員会は1月16日（水）午後2時から開催予定。